

京都光華女子大学カウンセリングセンター ご案内

当センターでは、さまざまなこころの不安・悩み、心理・発達の問題について、ご相談に応じます。なお、ご相談の内容について秘密は固く守られます。

申し込み方法 *必ず事前にお電話にてお申し込みください。(完全予約制)

電話番号 : 075-325-5281

受付時間 : 月~土 (祝祭日除く) 午前10時~午後5時

開室時間 : 月~金 午前10時~午後7時 土 午後10時~午後5時 (祝祭日除く)

料金 : (初回) 3,000円
(2回目以降) 個人面接2,000円 / 親子並行面接3,000円

面接時間 : 1回50分

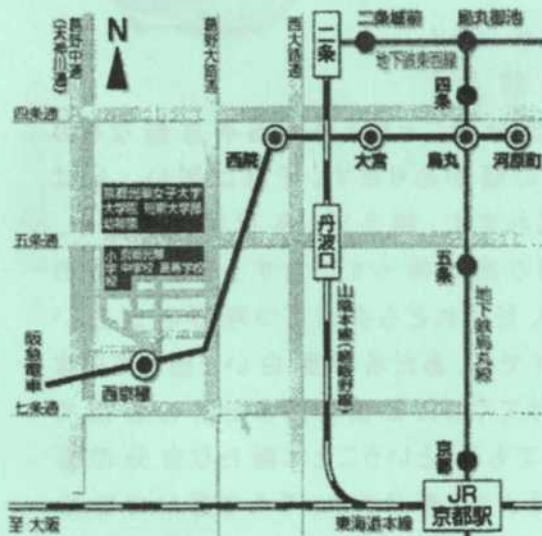
面接担当者: 大学院生 (臨床心理コース専攻)、研究生 (本大学院修了生)

専任カウンセラー、本学教員

*その他、詳細はお電話にてお問い合わせいただくか、下記HPをご覧ください。

URL : <http://www.koka.ac.jp/facilities/counseling.php>

地図・交通機関ご案内



阪急京都線

「西京極駅」下車 徒歩7分

JR

京都駅からバス約25分

「光華女子学園前」下車 徒歩1分

京都バス...81・83・84系統

市バス...27・32・73・80・84系統

センター受付事務室

五条通 北側

京都光華女子大学内

慈光館地下1階

光華*こころの手帳

—第4号—

編者 高野弘幸 (内田・大江・岡田)

発行者 センター長 石附 敦

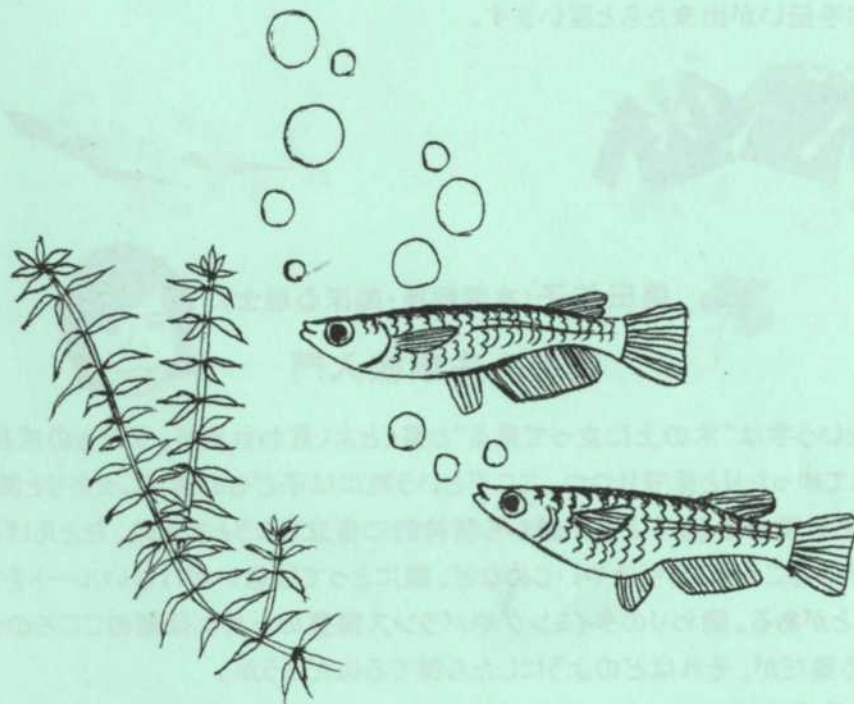
発行所 京都光華女子大学カウンセリングセンター

〒615-0882 京都市右京区西京極葛野町38

こどもと女性のための相談室

光華*こころの手帳

第4号



京都光華女子大学

カウンセリングセンター

平成20年3月発行



ご挨拶



3月に入り、春も近づきつつある今日この頃ですが、みなさまいかがお過ごしでしょうか。おかげさまでこころの手帳も第4号を発行することができました。

春は出会いと別れの時期であり、また、始まりの時期でもあります。人生には人それぞれ色々な出会いと別れがあります。別れはさびしいものですが、それぞれの新しい場所でさらに新しい出会いがあります。たくさんの思い出と新しい出会いを大切にしていけたらと思っております。

新しいことが始まる時誰でも不安があります。当カウンセリングセンターではそのような不安を一人ではなく、一緒に考えることで、少しでも気持ちが楽になるお手伝いが出来たらと思います。



徳田仁子(本学教授・臨床心理士)

親の人生学校入門



親という字は“木の上に立って見る”と書くとよく言われるが、子どもの成長を信じてゆったりと見守りつつ、ここぞという時には子どもの側でしっかりと関わることも必要である。子どもが親から精神的に自立しようとする時、たとえば不登校やひきこもり、万引きやいじめなど、親にとっては思いがけないルートをたどることがある。関わりのタイミングやバランス調整のためには親のこころの余裕が必要だが、それはどのようにしたら保てるのだろうか。

神谷美恵子氏はハンセン氏病の患者と共に生きた精神科医として有名であるが、彼女自身2人の男子の母親でもあった。月2回芦屋の自宅から瀬戸内海の島にある「長島愛生園」に通ったとのことだが、当時の鉄道や船を乗り継いだ行程は長くそれだけでも大変な労力であっただろう。彼女は「親となることは厳しい人生学校に入門するようなもの」「親とはそもそも人生でもっとも困難な事業を負った、弱い立場にある者なのだ。子を育てるよろこびを持つとともに、

子をもたない人にはない弱みを持った存在になること、これが親になることなのだ」と述べている(「こころの旅」より)。

確かに親は、全てをコントロールできない子どもの人生に関わりながら、かつ子どもを将来一人立ちすることができるよう責任をもって育てなければならない。そして子どもの運命を自分の運命として享受しなければならないという負い目を持った存在でもある。

しかしながら、親は弱い立場であるからこそ、信頼できる人とつながり、その人に頼み任せることもできる。子どもの行為にハラハラドキドキしながら、子どもの苦しみや悲しみを深く感じることもできるし、また楽しみや喜びを強く感じることもできる。こうしたこころの作業は親が自分自身のこれまでの生き方を振り返りながら、もう一度自分というものを探し出す作業でもある。そういった苦しい作業の果てに真の余裕が生まれるのであろう。親としての生き方、個としての生き方など、親の人生学校で学ぶことは、はてしなくかつ重い。親としての苦勞をねぎらいつつ、共に学ぶ仲間でありたい。



大学院生コラム

「名前」



名前とは呼ばれたら自分のことだと分かる不思議なものです。人にはいくつもの顔があります。それに伴い、人は様々な呼び名で呼ばれます。例えば、私は学生であり、先生であるというような顔を持っています。そして、その時々で私という同じ人だけでも少しずつ呼び名が違います。その呼び名の中でも、あだ名が面白いと感じています。あだ名は親がつけてくれた名前とはまた別の名前です。人にあだ名をつけてもらうということは新たな自分の面を見出してもらっているように感じます。そんな思いで自分の呼ばれている名前を思い起こすと確かに自分の性格を表している名前だなあと感じたりします。名は体を表すとはよく言ったものですね。(K)

